

# アンドロメダ姫の物語

エチオピア王家の**カシオペア王妃**は美しい人でしたが、それを鼻にかけていつも自慢ばかりしていました。それを聞いた海の妖精**ネレイデス**は自分がこの世で最も美しいといわれていただけに、我慢がなりません。

海の神**ポセイドン**に、怪物**ティアマト**を差し向け、カシオペアを懲らしめるように、頼みました。

ティアマトは真っ黒な体をした**化け物鯨**で、連日、大津波を起こし、人や家畜は波にさらわれ、猟師たちは海に出ることも出来ません。

困りきった**ケフェウス王**は、神に伺いを立てました。

ティアマトが暴れているのはカシオペアの器量自慢によるもの。ポセイドンの怒りを鎮めるには、娘の**アンドメダ姫**をいけにえにせよ。と言われました。

王も王妃も嘆き悲しみましたが、アンドロメダ姫は自ら、化け物鯨のいけにえになることを申し出ました。

アンドメダが海岸の岩場に鎖で縛り付けられると、にわかに空は黒い雲に覆われ、海面が大きく盛り上がりました。白波を立てながら黒光りしたティアマトが姿を現し、大きな口をあけました。

そのときです。

天馬**ペガサス**にうちまがり、メドゥサを退治して帰る途中の英雄**ペルセウス**が空から舞い降り、姿の消えるかぶとを脱いで姿を現すと、化け物鯨の退治を買って出ました。

この間にもティアマトは狂ったように迫ってきます。

ペルセウスは腰に下げた袋を開け、中からメドゥサ(髪の毛が蛇で、姿を見たものは石になる恐ろしい怪女)の首を取り出すとティアマトに向けました。

そのとたん、断末魔の悲鳴を上げたかと思うと、のたうちまわるティアマトは大きな岩になり、海中ふかく沈んでいきました。

ペルセウスは鎖を解いてアンドロメダを助けると、王と王妃の許しを得て結婚しました。

英雄**ヘルクレス**はペルセウスのひ孫に当たります。

今、北東の空に、この物語の主役たち、**カシオペア座** **ケフェウス座** **アンドロメダ座** **ペルセウス座** **ペガサス座** **くじら座** が 出揃っています。

アストロピア